



URL:fukushimafolklore.com

E-mail:fukushima.folklore1971@gmail.com

令和6年度 福島県民俗学会大会報告

日時：令和6年6月2日（土）

場所：福島県立博物館講堂

《研究発表会》 11:00~12:30

・豊田 暁 氏

「福島県と栃木県の鍬を用いた踊りについて」

・星 洋和 氏

「農家が営む塩田の技術改良

ー祭魚洞文庫収蔵資料の分析からー」

今回は新入会員二人による発表となった。

豊田氏からは、福島県東部と栃木県那須地域にみられる「平鍬踊り」（旧大田原藩領では「城鍬舞」）を中心に民俗芸能の報告が行われ、行事に際して獅子舞が付く事例の地域分布や、名称の由来、過去の中断から復活した事例などが発表された。

星氏からは、国文学研究資料館所蔵資料「祭魚洞文庫」のうち「宮城県陸前国渡ノ波流塩田図解」の分析をもとに、聞き取り調査の成果もあわせて、宮城県石巻市渡波地区にかつて存在した塩田について報告が行われた。

《総会》 13:30~14:00

1 令和5年度決算報告

2 令和6年度予算について

- ・今年度より、一般会計（通信費、印刷製本費、借上費等）と特別会計（報償費、東北合同研究会費、記念事業費等）に分けての予算編成とすることが決められた。
- ・その他、旅費規程の見直し、3年に1度の外部講師を招いての講演会に向けての報償費の積み立て、会誌の論文英字タイトル翻訳者への

謝礼を設定することなどが決定された。

3 令和6年度活動計画

- ・例年の活動に加え、リモート研究会を2回開催する。

4 新入会員について

- ・新入会員は3名、退会者は2名であった。

《フォーラム》 14:10~16:00

テーマ「コロナ禍を経てー民俗の今日」

・基調報告1 鍵水 実 氏

・基調報告2 二本松 文雄 氏

鍵水氏からは、白河提灯祭りのコロナ禍における対応について、祭礼組織による中止の決定過程、規模を縮小しての再開、さらに、今後の問題点と持続可能な民俗行事を目指しての取り組み等についての報告が行われた。



【白河提灯祭り（様々な町印提灯が合同しての神輿渡御）】

二本松氏からは、相馬地方のお浜下りをテーマに、コロナ禍の影響による祭礼の延期や規模縮小の事例が発表されました。特に相馬地方のお浜下りは決まった干支の年で12年周期に行われる例が多いことから、延期されることにより

福島県民俗学会通信誌『ふぉーらむ・F』19号
2024(令和6)年10月31日発行
編集・発行:福島県民俗学会(会長 岩崎真幸)
通信誌編集:鏈水 実 事務局:福島県立博物館内